

2012年 3月期 決算説明会

代表取締役社長
芳井 順一

2012年5月11日

2012年3月期 決算概要

2012年3月期 決算概要-1

(百万円)

	計画	2012/3	計画比	2011/3	前同比
売上高	96,600	95,450	△1,149	94,778	672
営業利益	21,700	21,233	△466	21,553	△319
経常利益	21,900	21,783	△116	21,725	57
当期純利益	12,200	13,431	1,231	12,945	486

営業利益率	22.5%	22.2%	-	22.7%	-
-------	-------	-------	---	-------	---

ROA (総資産営業利益率)	-	14.5%	-	15.6%	-
-------------------	---	-------	---	-------	---

配当 (1株当たり配当金)	60円	60円	-	58円	2円
------------------	-----	-----	---	-----	----

2012年3月期 決算概要-2

(百万円)

	計画	実績	差異	計画差異分析
売上高	96,600	95,450	△1,149	医療用漢方製剤の数量伸長率は震災前の水準に戻ってはいないものの、着実に回復基調にある。引続き営業活動を強化していく。
営業利益	21,700	21,233	△466	主に売上高減による
経常利益	21,900	21,783	△116	—
当期純利益	12,200	13,431	1,231	主に投資有価証券売却益13.8億円 (株式会社バスクリン)

中期経営計画 (2009-2011年度)

総括

中期経営計画(2009-2011年度)総括-1

計画は当初計画値(2009年5月14日公表)

(百万円)

	2009年度			2010年度			2011年度		
	計画	実績	差異	計画	実績	差異	計画	実績	差異
売上高	92,300	90,933	△1,366	96,900	94,778	△2,121	104,300	95,450	△8,849
営業利益	19,100	18,938	△161	20,700	21,553	853	25,400	21,233	△4,166
経常利益	19,300	19,071	△228	20,900	21,725	825	25,700	21,783	△3,916
当期純利益	11,300	10,704	△595	12,100	12,945	845	15,000	13,431	△1,568
営業利益率	20.7%	20.8%	-	21.4%	22.7%	-	24.4%	22.2%	-
ROA (総資産営業利益率)	14.5%	14.5%	-	14.7%	15.6%	-	16.7%	14.5%	-

中期経営計画(2009-2011年度)総括-2

計画は当初計画値(2009年5月14日公表)

(百万円)

	2009年度			2010年度			2011年度		
	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率
売上高	92,300	90,933	98.5%	96,900	94,778	97.8%	104,300	95,450	91.5%

売上高分析項目	売上高の計画差異分析
数量伸長率 (実力値)	医療用漢方製剤の数量伸長率を各年度「10%」として計画策定 <実績>2009年度9.0%、2010年度9.4%、2011年度4.0%
	2009、2010年度の数量伸長は堅調に推移するも、2011年度は震災影響を受けた結果となる。
薬価改定率	2010年4月の薬価改定率は「△3.3%」として計画策定 <実績>△4.5%

中期経営計画(2009-2011年度)総括-3

活動目標	目標	実績
1.漢方医学の 確立	漢方医学教育実施の支援 ・漢方医学教育の実施 (8コマ以上必修) ・漢方外来の設置 ・大学主催講師育成制度	2008年度末 ⇒ 2011年度末 71 ⇒ 78 大学 69 ⇒ 79 施設 71 ⇒ 79 大学
	—	<ul style="list-style-type: none"> 『医学教育モデル・コア・カリキュラム』の改訂 (2011年3月) 「和漢薬(漢方薬)の特徴や使用の現状について 概説できる」
2.育薬の推進	新たな領域・疾患	<ul style="list-style-type: none"> がん領域の育薬処方として、 牛車腎気丸、半夏瀉心湯を追加(2009年11月)
	エビデンスの確立	<ul style="list-style-type: none"> 全育薬処方で、二重盲検ランダム化比較試験が行われる(一部は厚労省科研費による研究) DDW採択演題数の増加 (2010~2012の3年間で62演題採択) 大建中湯の3,460例使用成績調査を終了
	育薬3処方売上高で 2011年度に200億円を 目指す	<ul style="list-style-type: none"> 2009年度 148億円(達成率 99.8%) 2010年度 172億円(達成率101.4%) 2011年度 184億円(達成率 92.2%)

中期経営計画(2009-2011年度)総括-4

活動目標	目標	実績
3.漢方の国際化(米国)	POI(術後イレウス)	<ul style="list-style-type: none"> 開発疾患に「IBS-C」、「クローン病」を追加(2011年11月) それぞれEarly Phase II 試験を実施
4.生産能力の増強と品質管理体制の充実	漢方エキス粉末の生産能力の増強	<ul style="list-style-type: none"> 茨城工場SD工程の稼働(2011年9月) 当社エキス粉末の生産能力: 3,300t ⇒ 4,050t(+750t)
	—	<ul style="list-style-type: none"> 放射性物質の検査を「生薬等の放射性物質測定ガイドライン」(日薬連策定)に基づき実施(2011年12月)
5.安全な生薬の安定確保	野生生薬の栽培化	<ul style="list-style-type: none"> 甘草の大規模栽培技術の確立(2011年4月)
	自社管理圃場の拡大	<ul style="list-style-type: none"> 夕張ツムラの設立(2009年7月)
	トレーサビリティ体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ラオツムラの設立(2010年2月)
6.開かれた会社の創造	障がい者雇用の拡大	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者雇用率 1.97%(2009年3月末)⇒3.93%(2012年3月末)
	—	<ul style="list-style-type: none"> 「日本でいちばん大切にしたい会社大賞(経済産業大臣賞)」を受賞(2012年3月)

2013年3月期 計画

2013年3月期 計画

(百万円)

	今期計画	前期比		差異分析
		差異	伸長率	
売上高	99,100	3,649	3.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・医療用漢方製剤・実売 数量伸長率は6.7%を前提 ・薬価改定(△3.8%)
売上原価	34,500	4,555	15.2%	<売上原価率> 前期31.4%⇒今期34.8%
販管費	45,400	1,128	2.5%	<販管费率> 前期46.4%⇒今期45.8%
営業利益	19,200	△2,033	△9.6%	<営業利益率> 前期22.2%⇒今期19.4%
経常利益	19,400	△2,383	△10.9%	—
当期純利益	12,100	△1,331	△9.9%	—
配当 (1株当たり配当金)	60円	—	—	—

2013年3月期 売上原価率

前期31.4% ⇒ **今期計画 34.8%** 3.4p増

内容	影響度
生薬価格高騰	2.3p
薬価改定	1.2p
原資材値上がり	0.1p
減価償却費増	0.1p
その他	▲0.3p
計	3.4p



◇今後の見通し

生薬の産地仕入れ価格は、2011年をピークに緩やかな下落傾向にあり、2014年度(2015.3期)は、生薬価格が売上原価率の引き上げ要因とはならない見通し。

キャッシュフローの使途

設備投資・減価償却費

(百万円)

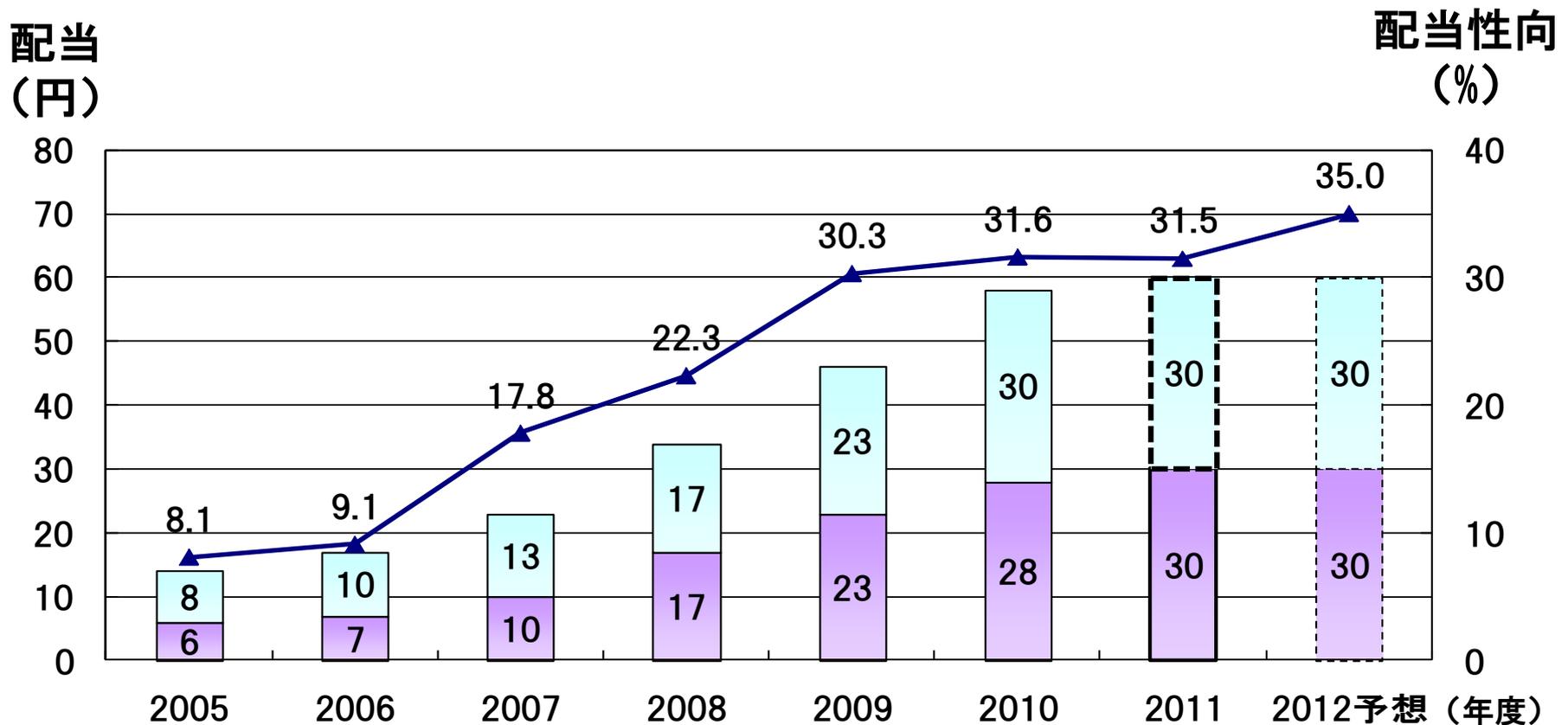


設備投資 内訳	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
茨城 SD工程	13億円	13億円	2億円	—
茨城 造粒棟	—	7億円	10億円	12億円
静岡 造粒・包装、生薬棟	—	—	4億円	10億円
上海 SD棟	—	—	11億円	27億円
生薬関連(深圳・石岡)	—	2億円	5億円	25億円
その他設備・メンテナンス	39億円	30億円	32億円	29億円
合計	52億円	52億円	64億円	103億円

株主還元(配当政策)

【基本方針】

設備投資や毎期の業績、配当性向等をふまえ増配を基調に安定配当を目指す。



新体制について

(2012年6月28日付予定)

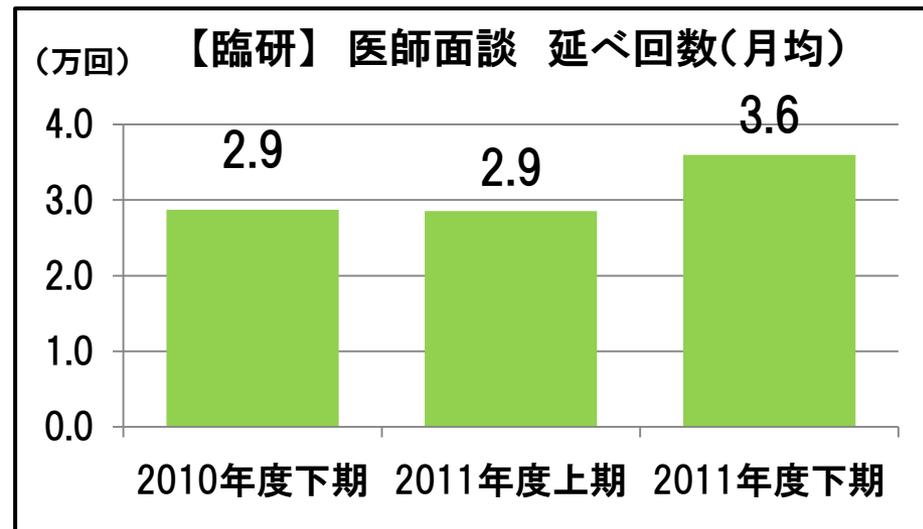
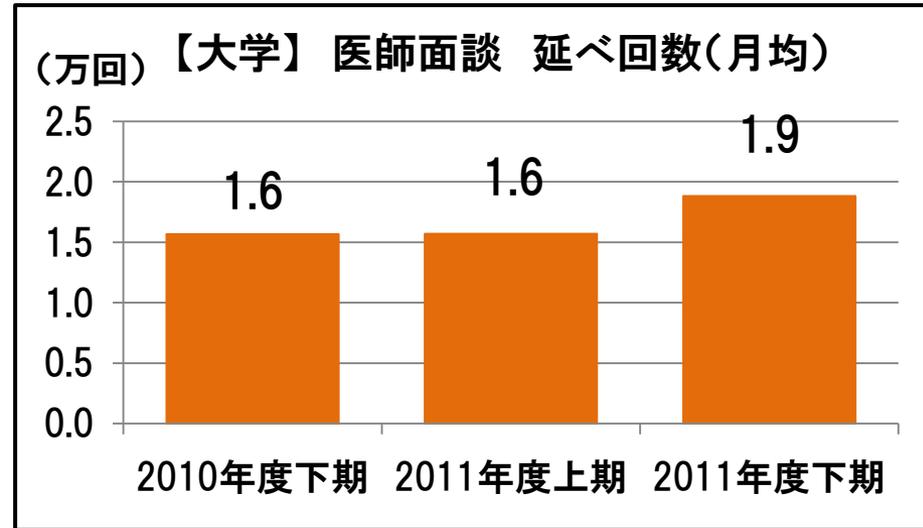
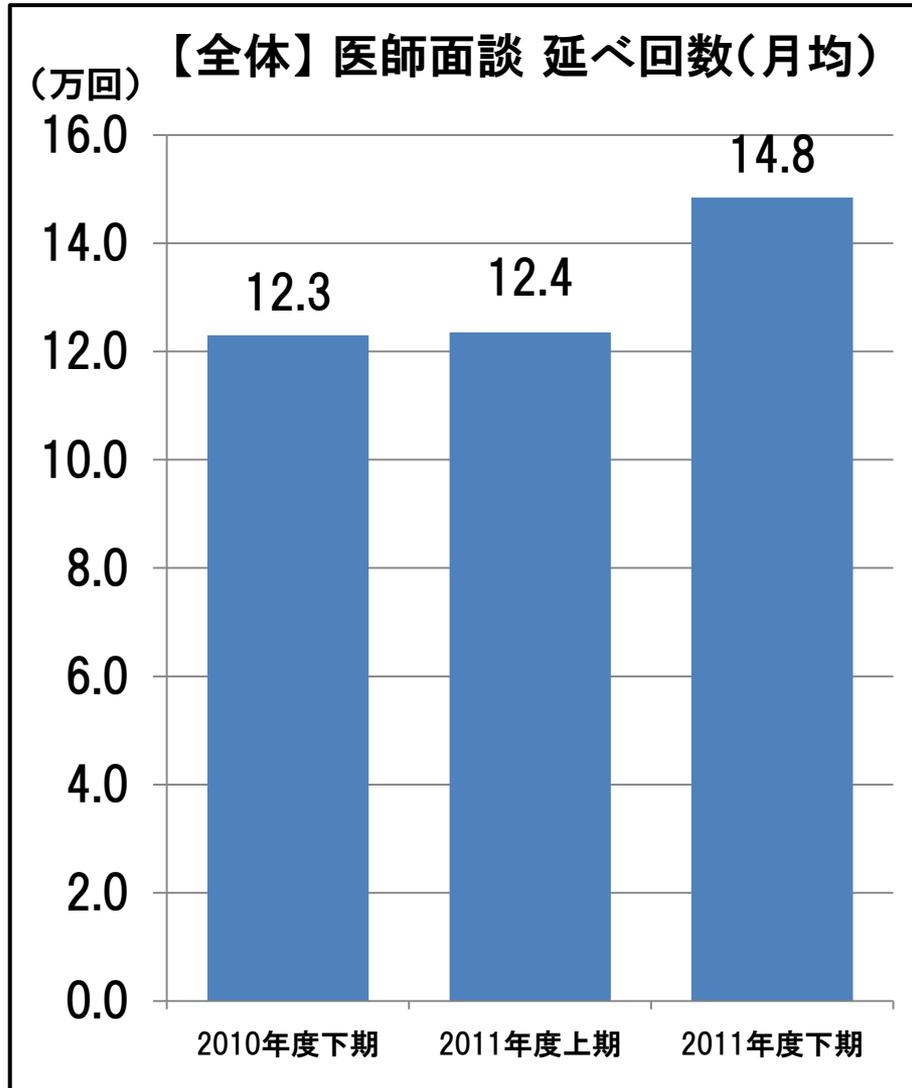
地位	氏名
取締役 会長	芳井 順一
代表取締役 社長	加藤 照和
専務取締役 執行役員	田中 典裕
常務取締役 執行役員	杉田 亨
取締役 執行役員	竹田 秀一
取締役 執行役員	中山 照也
取締役 執行役員	藤 康範
取締役 執行役員	岩澤 強
取締役 執行役員	高崎 隆次
社外取締役	杉本 茂

2011年度および2012年度 営業施策

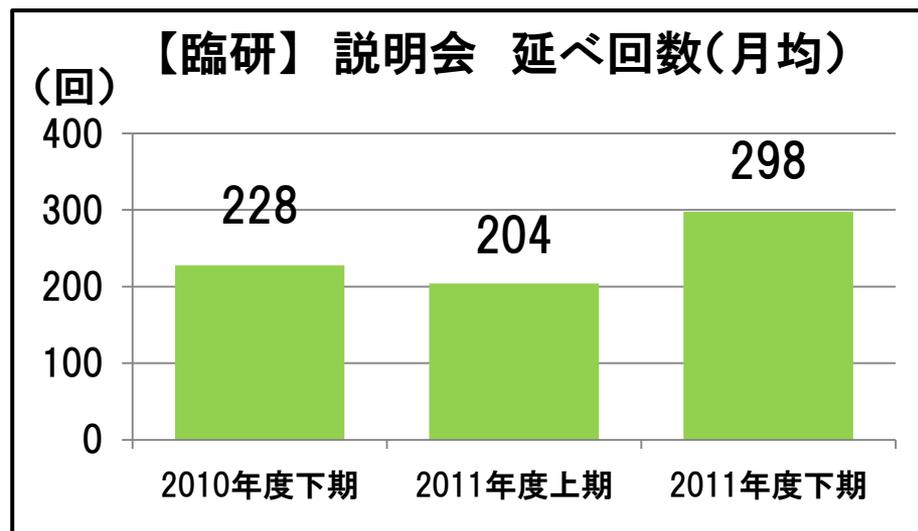
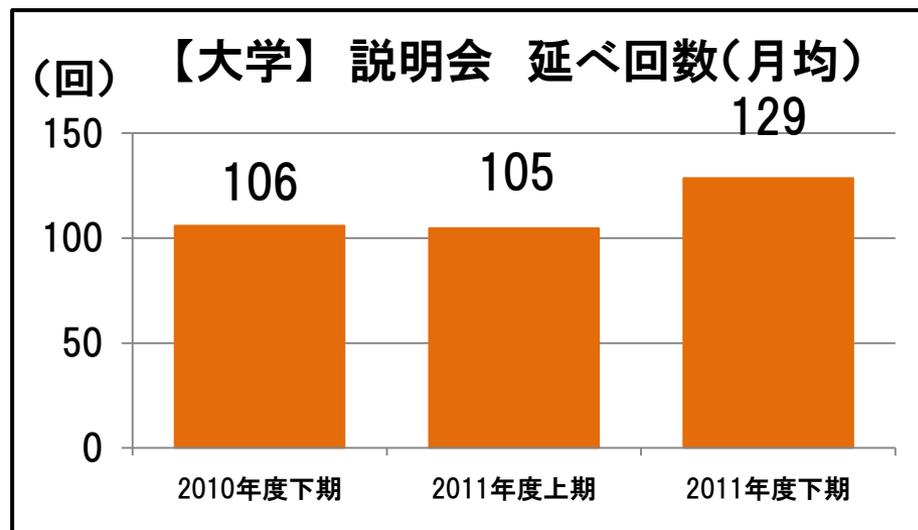
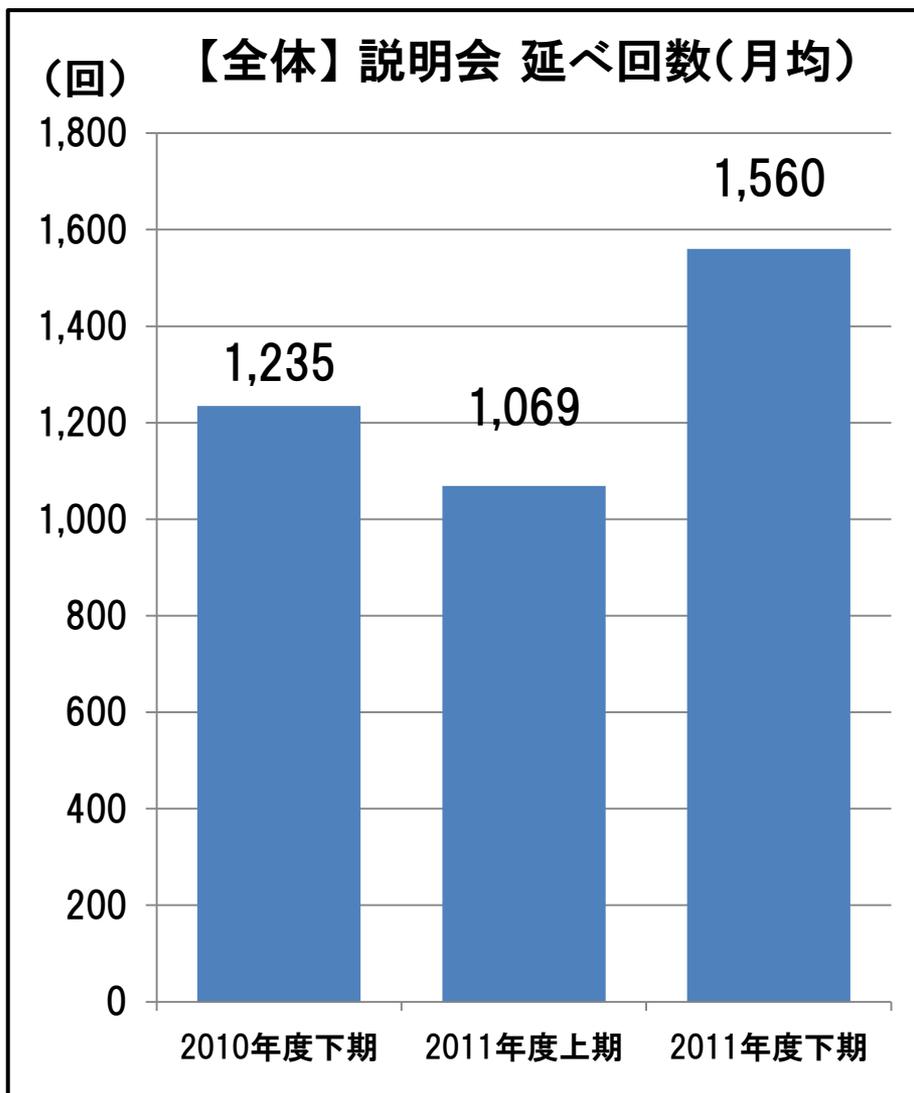
常務取締役
医薬営業本部長

田中 典裕

MR活動 ～全MRの医師面談数～

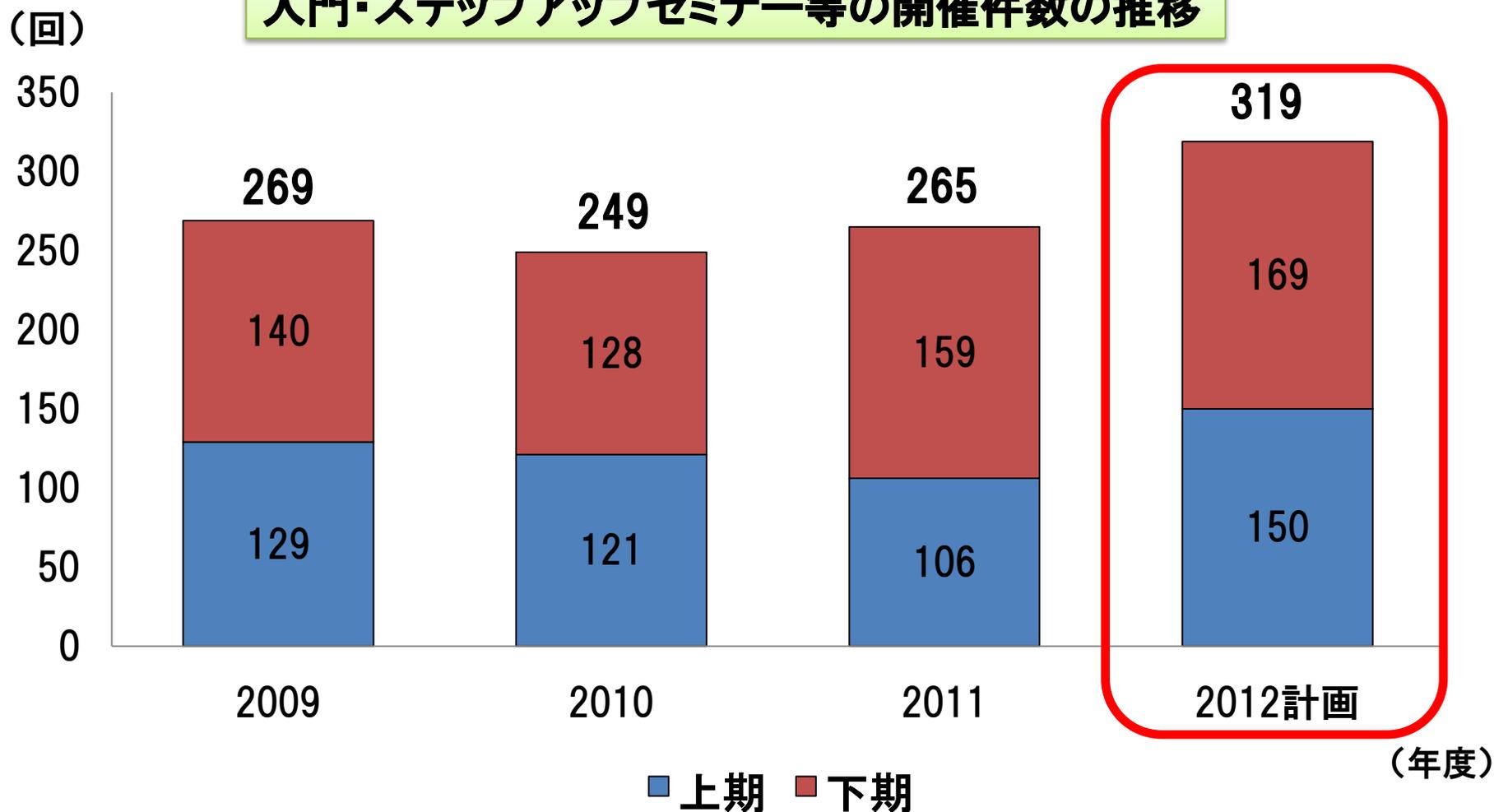


M R 活動 ～医局説明会数の推移～



MR活動 ～漢方医学セミナーの推移～

入門・ステップアップセミナー等の開催件数の推移

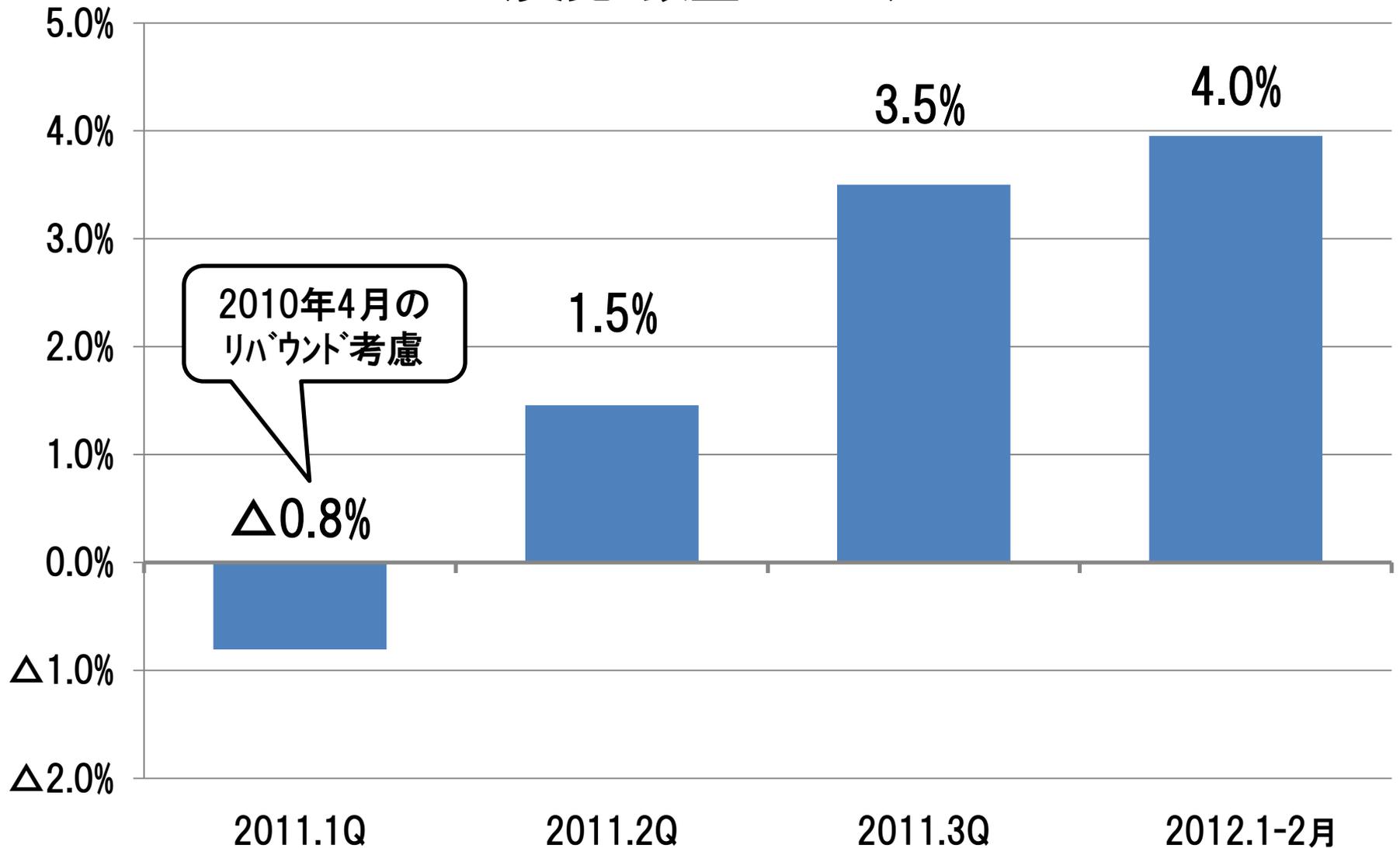


2011年度実績:265回

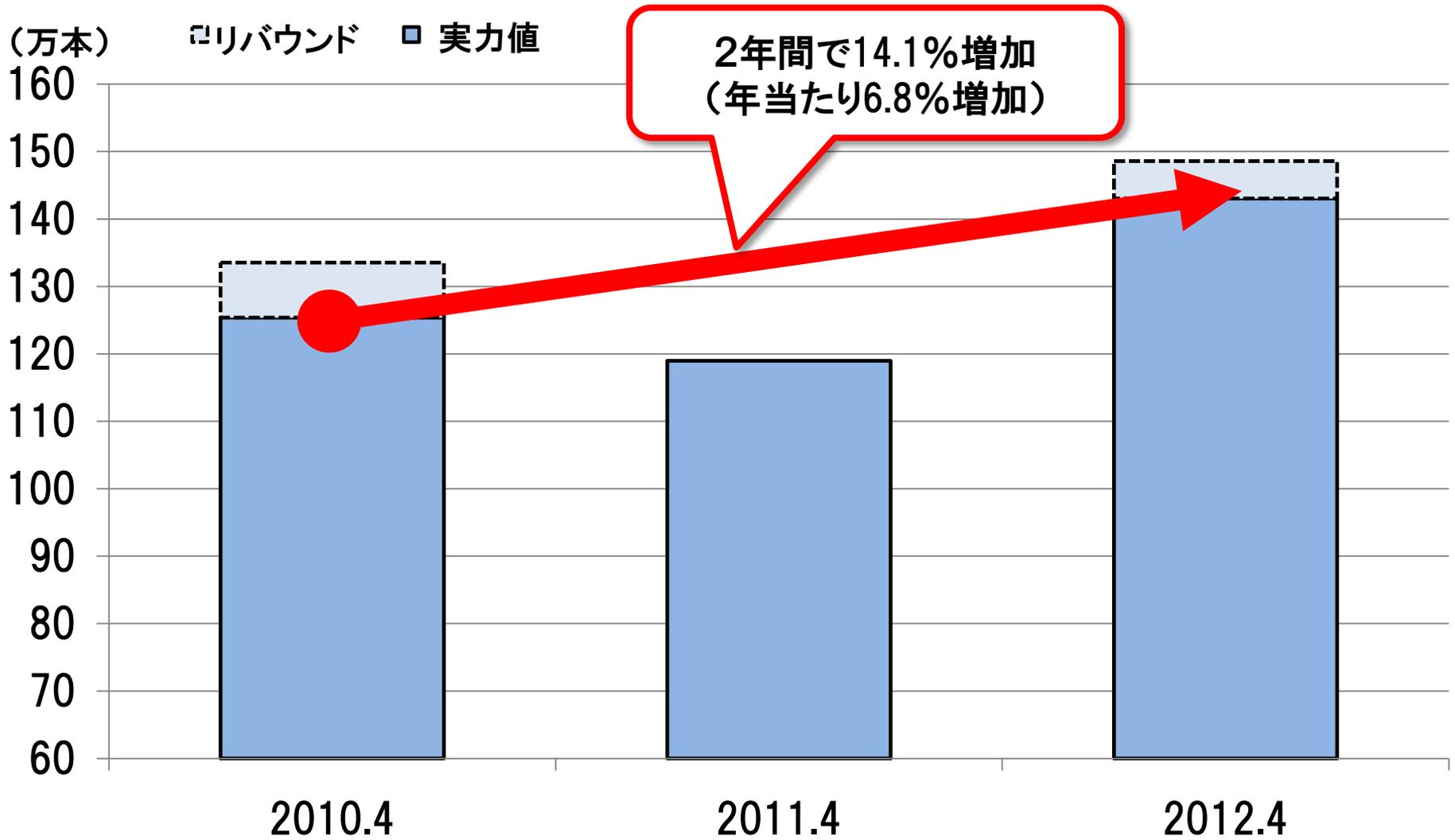
2012年度計画:319回

医療用漢方製剤の伸長率

(実売・数量ベース)



直近の医療用漢方製剤の伸長率 (実力値、実売・数量ベース)



研究進捗状況

エビデンスの活用

① 育薬処方新規エビデンス



② 本社主管学術イベント
(学会ランチョンセミナー・領域別学術研究会 等)



③ 育薬講演会
(エリア別)

米国消化器病週間(DDW) 漢方関連採択演題数推移

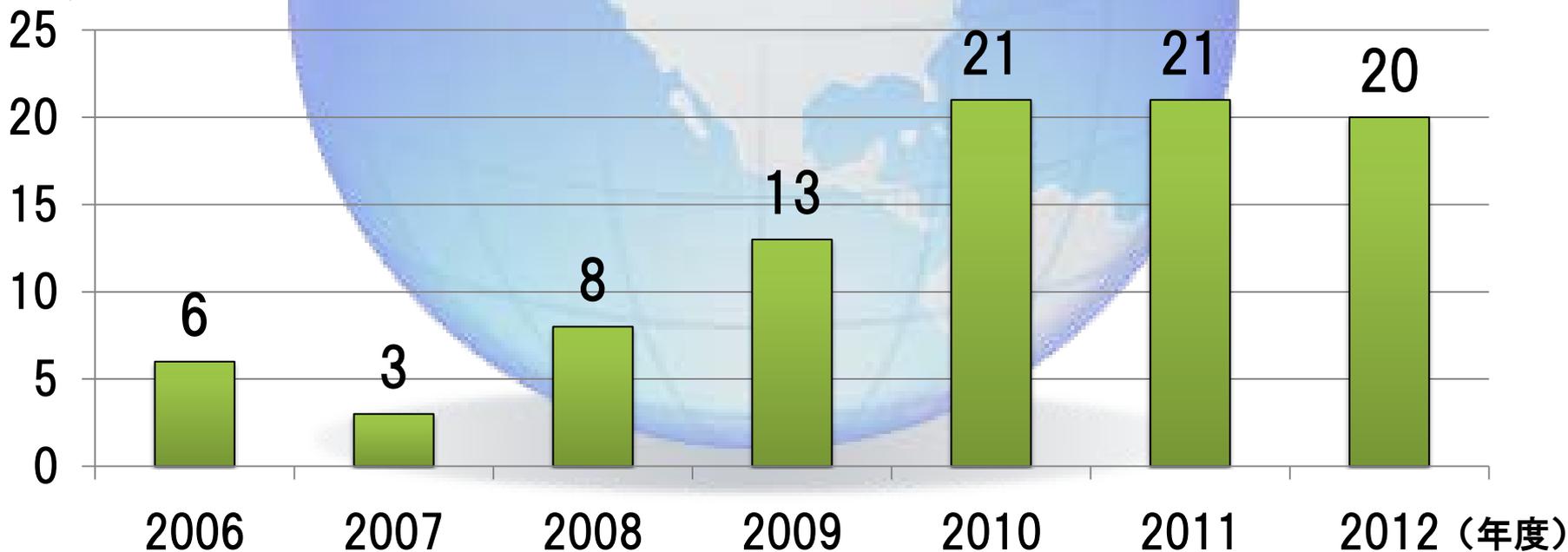
2012年DDW 20演題採択

六君子湯 : 16演題

大建中湯 : 3演題

半夏瀉心湯 : 1演題

(演題数)



DKTフォーラム進捗状況

年度		2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
試験名	DKTフォーラム 大腸班									
	DKTフォーラム 臨床薬理班									
	DKTフォーラム 肝外科班									
	DKTフォーラム 胃・食道班		実施中:DB-RCT							
	薬物動態試験(STEP I & II)									
	使用成績調査(副作用発現)									

①肝臓癌手術後(肝外科班):班長 草野満夫(釧路労災病院 病院長)

学会発表:JDDW(2012年10月)、海外誌論文投稿中

②大腸癌手術後(大腸班):班長 渡邊 昌彦(北里大学外科 教授)

試験終了・4月12日 キーオープン 解析作業中

学会発表:日本外科学会(2013年5月)発表予定、論文投稿準備中

③大腸癌手術後(臨床薬理班);班長 前田 耕太郎(藤田保健衛生大学 消化管外科 教授)

試験終了:6月予定

学会発表:未定

④使用成績調査

調査終了:3,460症例、添付文書改訂(2012年10月予定)

育薬臨床研究(DB-RCT)の進捗状況-1

抑肝散(TJ-54)

治療抵抗性
統合失調症*

責任研究者:堀口 淳(島根大学 精神科)
研究事務局:大阪大学医学部附属病院 未来医療センター
症例登録期間:2011年3月~2013年2月(2年)
参加施設数:31施設
登録予定症例数:120症例(実薬群・プラセボ群:各60症例)

認知症に伴う
精神神経症状*
(BPSD)

責任研究者:荒井 啓行(東北大学 加齢医学研究所)
研究事務局:東北大学病院 臨床試験推進センター
症例登録期間:2011年3月~2013年1月(2年)
参加施設数:25施設
登録予定症例数:140症例(実薬群・プラセボ群:各70症例)

六君子湯(TJ-43)

*2011年度 厚生労働省科学研究費による研究

G-PRIDE Study

【対象疾患】
PPI抵抗性GERD患者

責任研究者:荒川 哲男(大阪市立大学 消化器内科)
実施責任組織:ワックスマン財団
症例登録期間:2011年8月~2013年3月(2年)
参加施設数:66施設
登録予定症例数:240症例(実薬群・プラセボ群:各120症例)

6月終了予定

育薬臨床研究(DB-RCT)の進捗状況-2

半夏瀉心湯(TJ-14):抗癌剤投与による口腔粘膜障害(口内炎)

HANGESHA-C Study

【対象疾患】

大腸癌化学療法施行患者

責任研究者:三嶋 秀行(国立病院機構大阪医療センター 外科)
研究事務局:特定非営利活動法人疫学臨床試験研究支援機構(ECRIN)
症例登録期間:2010年10月~2012年9月(2年)
参加施設数:31施設
登録予定症例数:90症例(実薬群・プラセボ群:各45症例)

試験終了

HANGESHA-G Study

【対象疾患】

胃癌化学療法施行患者

責任研究者:円谷 彰(神奈川県立がんセンター 消化器外科)
研究事務局:特定非営利活動法人疫学臨床試験研究支援機構(ECRIN)
症例登録期間:2010年10月~2012年9月(2年)
参加施設数:25施設
登録予定症例数:90症例(実薬群・プラセボ群:各45症例)

6月終了予定

出所:UMIN臨床試験登録システムより

牛車腎気丸(TJ-107):抗癌剤投与による末梢神経障害

GENIUS Study*

【対象疾患】

FOLFOX療法施行患者

責任研究者:掛地 吉弘(九州大学大学院医学研究院 消化器・総合外科)
実施責任組織:九州大学大学院医学研究院消化器・総合外科学
症例登録期間:2010年10月~2013年3月(2年半)
参加施設数:51施設
登録予定症例数:310症例(実薬群・プラセボ群:各155症例)

新規臨床研究の予定

大建中湯(TJ-100)

JAPAN-PD Study

【対象疾患】
膵頭十二指腸切除術
施行患者

責任研究者: 山上 裕機(和歌山県立医科大学 第二外科)
実施責任組織: 特定非営利活動法人疫学臨床試験研究支援機構(ECRIN)
症例登録期間: 2012年9月～2014年8月(2年)
参加施設数: 11施設
登録予定症例数: 200症例(実薬群・プラセボ群: 各100症例)

クローン病

【対象疾患】
中等度クローン病患者

責任研究者: 日比 紀文(慶応義塾大学 消化器内科)
実施責任組織: 慶応義塾大学医学部クリニカルリサーチセンター
症例登録期間: 2012年6月～2014年5月(2年)
参加施設数: 10施設
登録予定症例数: 120症例(実薬群・プラセボ群: 各60症例)

抑肝散(TJ-54)

使用成績調査

副作用発生頻度調査

調査実施期間: 2012年10月～2014年3月(1年半)
症例登録期間: 2012年10月～2013年3月(6ヶ月)
参加施設数: 330施設
登録予定症例数: 3300症例

がん治療専門医師対象 漢方Oncologyセミナーの実施

厚生労働省 上園班とツムラとの共催で、全国7エリアでがん治療の専門医を対象とした漢方セミナー(1日集中)を実施する。

実施エリア(予定):札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、岡山、福岡

実施期間:2012年度中

対 象:がん拠点病院に勤務し、がん治療を行っている医師(がん治療専門医)

予定人数:210名(1セミナーあたり上限30名)

上園班

厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略総合事業
「がん治療の副作用軽減ならびにがん患者のQOL向上のための
漢方薬の臨床応用とその作用機構の解明」研究班



JDDW 2012 Kobe ランチョンセミナー

日時

2012年10月13日(土)
12:30~13:40

場所

神戸ポートピアホテル
南館1階 大和田C (第7会場)

KAMPOのエビデンスを解き明かす

大建中湯の肝癌術後における消化管機能異常に対する
ランダム化二重盲検比較試験の検討

DKTフォーラム 国内発表第一弾

座長

兼松 隆之 先生

長崎大学名誉教授

演者

永野 浩昭 先生

大阪大学大学院医学系研究科 消化器外科学 准教授

特別発言

草野 満夫 先生

釧路労災病院 院長

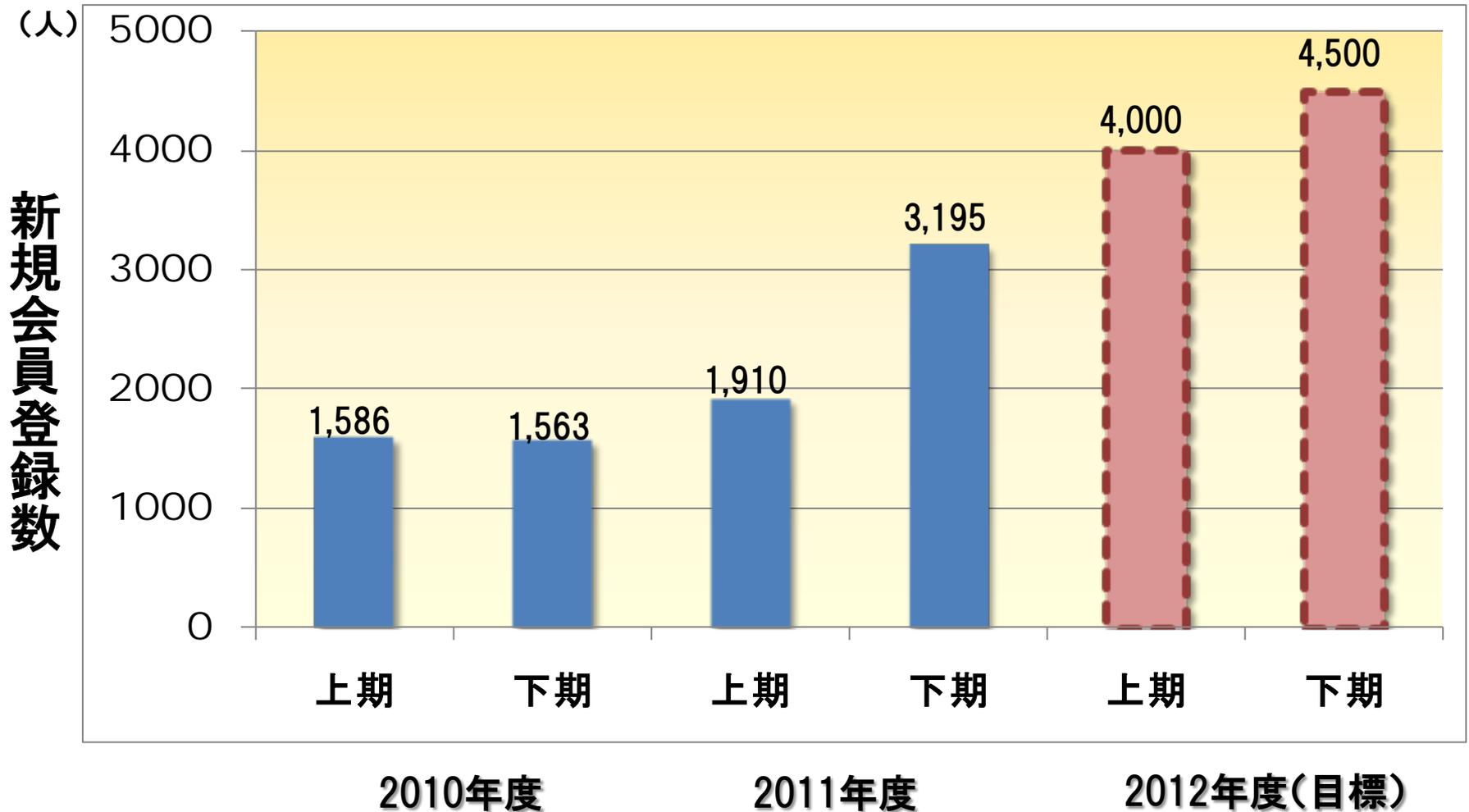
育薬関連イベント数&参加医師数推移

	2010年度 実績	2011年度 実績	2012年度 計画
学会ランチオンセミナー	29回	28回	26回
参加人数	3,565名	2,935名	4,000名
領域別学術研究会	10回	8回	9回
参加人数	1,427名	1,170名	2,000名
エリア別育薬講演会	34回	35回	40回
参加人数	2,179名	1,968名	4,000名
総参加人数	7,171名	6,073名	10,000名

漢方スクエア 年度別会員数推移



医療関係者向けサイト 漢方スクエア 新規会員推移



2012年度は、更に新規会員の登録を押し進めることにより
ネット上でより多くの医療関係者への漢方啓発を進める

原料生薬について

執行役員
生薬本部長

岩澤 強

中国における生薬調達のプロロー

生薬調達の基本フロー(中国)

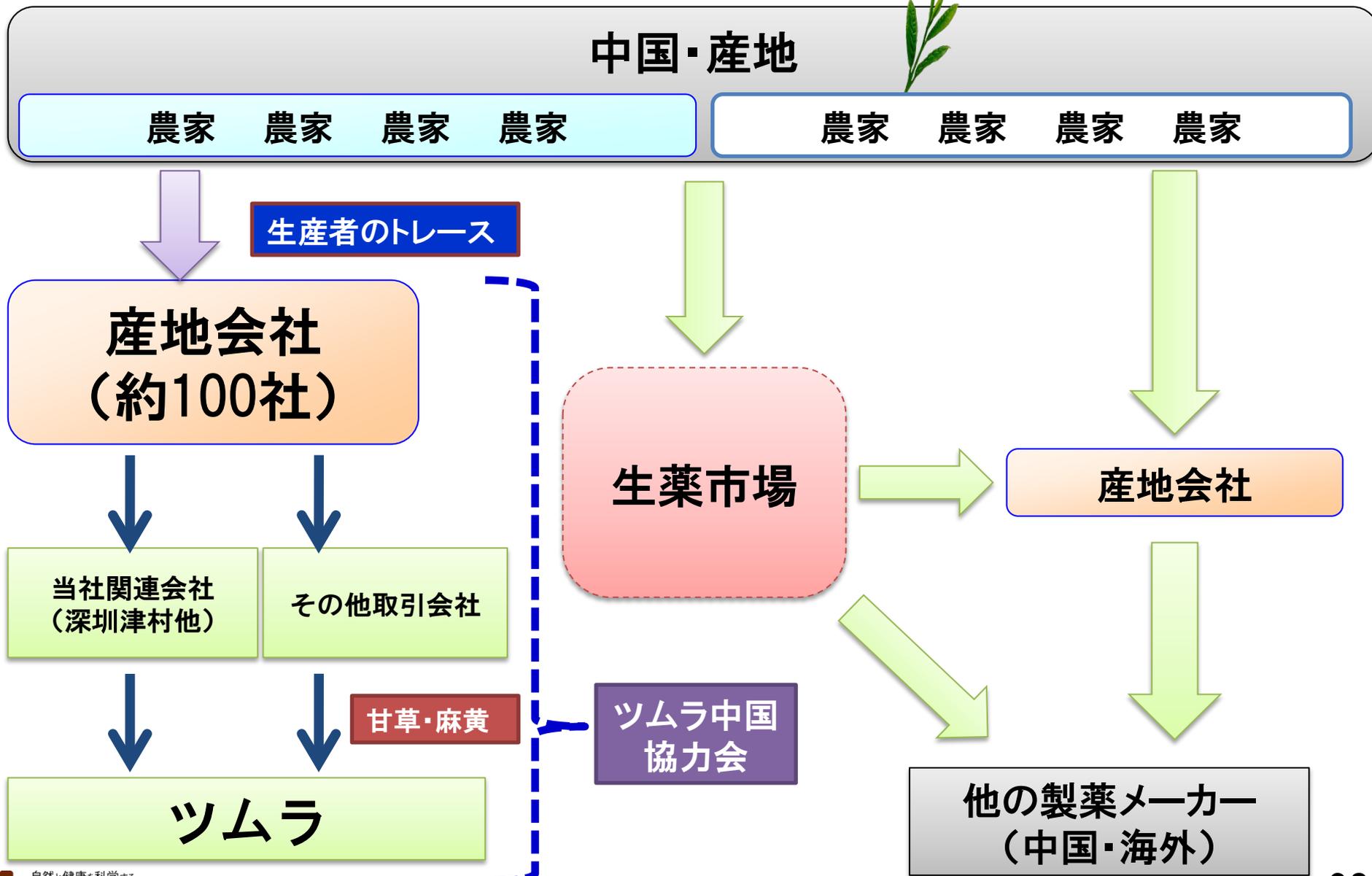
当社は、生薬トレーサビリティ体制を構築し、中国各地の**産地会社(約100社)**を通じて、生産者まで特定し、量・品質・価格ともに**安定的に生薬を調達**してきた。

生産者コントロールの中心的な役割を果たす産地会社とは、毎年中国協力会等を通じて継続的な関係強化を図っている。

産地⇔産地会社⇔関連会社の供給ルートの強化の取り組みを通じて、価格については市場の影響は受けつつもこれまで**一定の幅に収ま**ってきた。

当社は従来より中国との良好な関係を構築しており、
今後も**生薬の安定調達に支障はない**。
(産地会社との信頼関係、甘草等の栽培化事業など)

生薬調達の基本フロー(中国)



生薬価格の高騰

中国における生薬価格高騰の理由

- ① 2010～2011年にかけて、中国国内における**生薬需要増**を背景に価格が上昇した。
さらに、生薬の**投機的な買占め**が行なわれた。
→中国国内でも問題視された。
- ② 2010年の天候不順による**収穫量の減少等**が重なり、**需給が逼迫**し、投機に拍車をかけた。
→ 2010～2011年にかけて、**これまでに例のないレベル**の、生薬価格の高騰を招いた。
- ③ **買占め行為**が生産地にまで及んだ事から、当社の購入価格にも影響が及んだ。

生薬価格高騰の背景(中国)

天候不良による生薬の不作(2010春 四川省・早ばつ、2010秋 山東省・大雨)

農家 農家 農家 農家

農家 農家 農家 農家

購入価格に影響

産地会社
(約100社)

当社関連会社
(深圳津村他)

その他取引会社

甘草・麻黄

ツムラ

投機的買占め

取引価格上昇

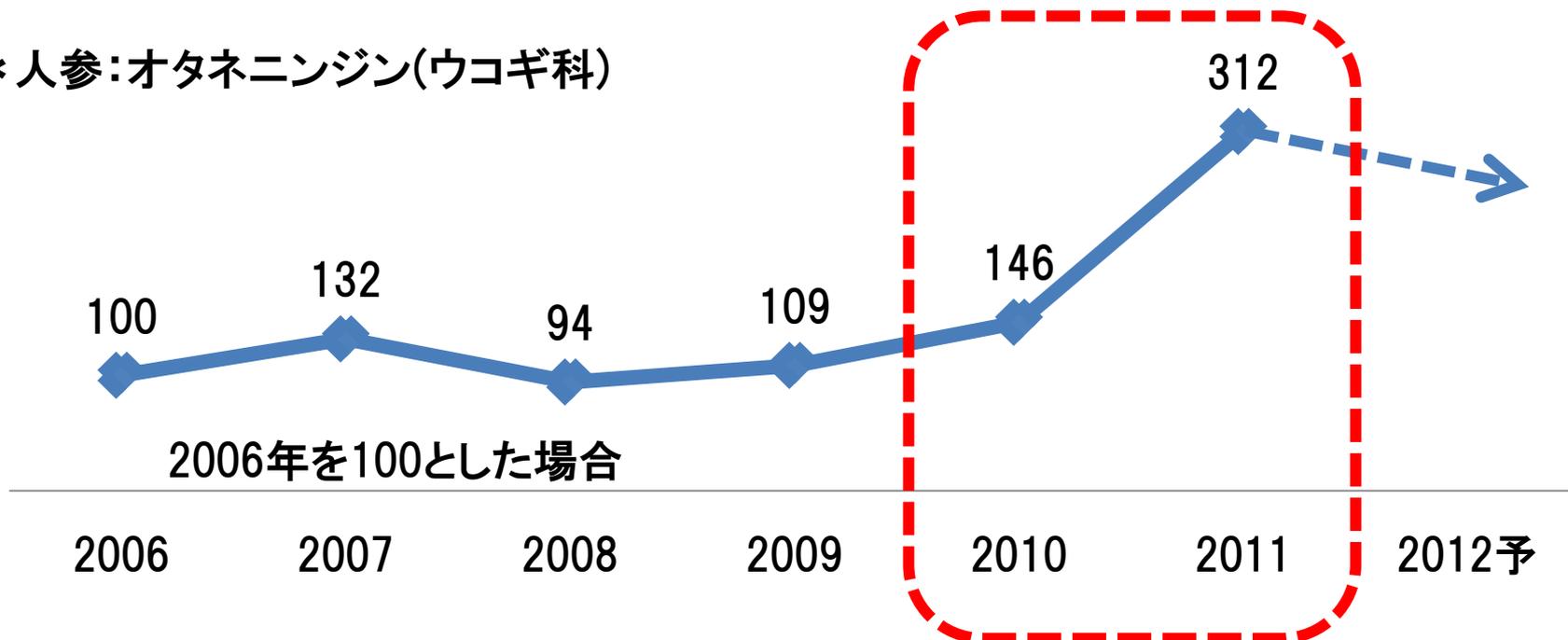
投機的買占め

生薬市場・産地会社・
他の製薬メーカー(中国・海外)

生薬需要の高まり

「人参」の産地仕入れ価格 (産地会社→関連会社 実績)

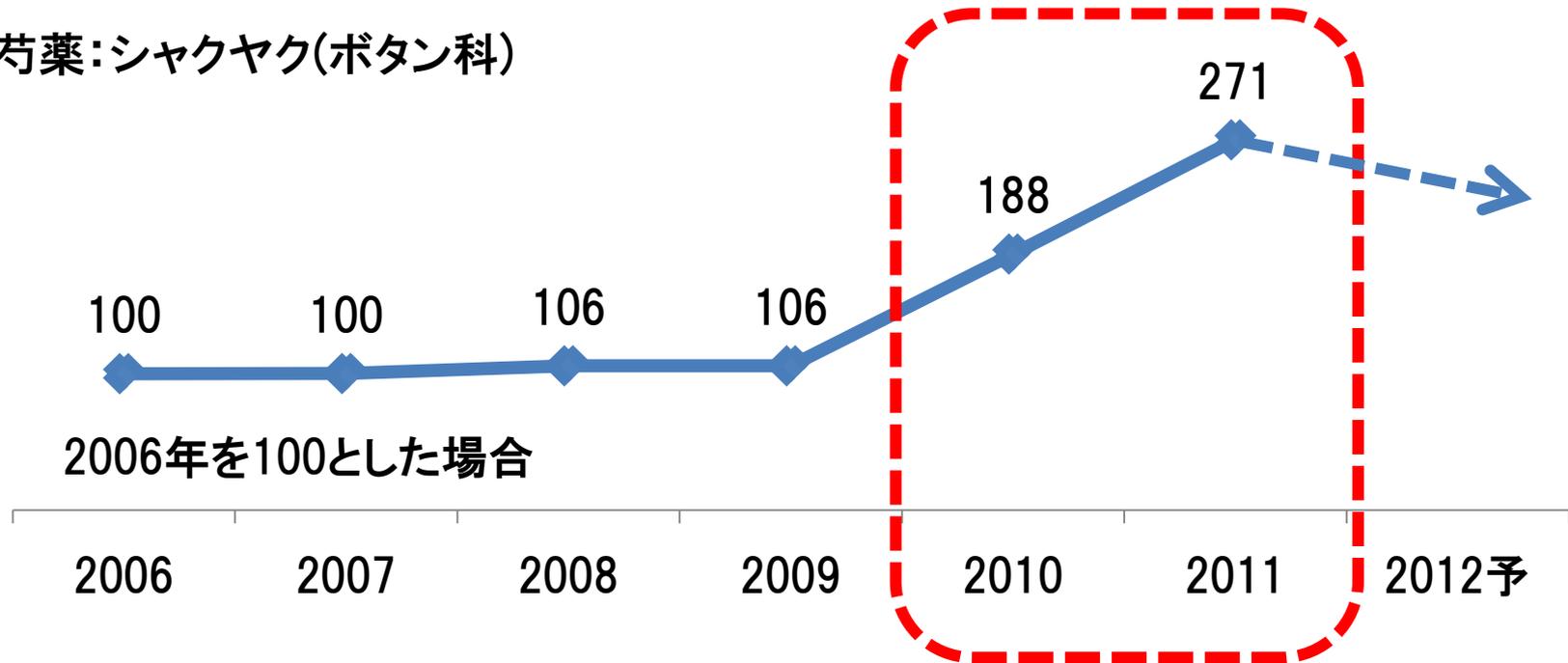
* 人参:オタネニンジン(ウコギ科)



- 市場に流通している物だけでなく、産地にも資金が流入し、**収穫前の生薬**を高額で買い占める事例もあった。
- 中国国内で流通している人参の約半分が買い占められたという報道もあり。
- **流通量が極端に少なくなり**、その結果、高騰を招いた。

「芍薬」の産地仕入れ価格 (産地会社→関連会社 実績)

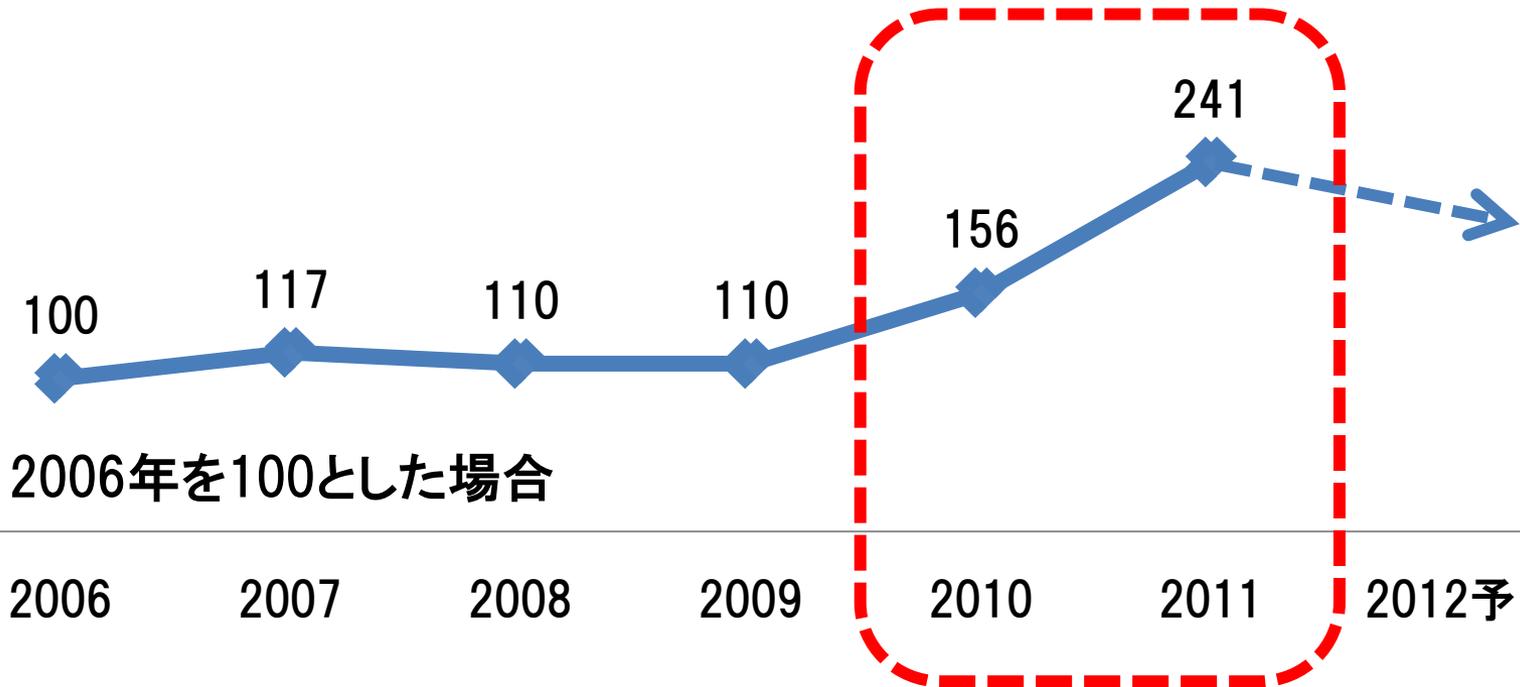
* 芍薬: シャクヤク(ボタン科)



- 2010年四川省(旱ばつ)・山東省(大雨)の影響による価格上昇
- 2011年投機的買占めによる価格上昇

中国産全生薬の仕入れ価格

(産地会社→関連会社 実績)加重平均値



2011年秋以降は、中国政府の生薬の買占めに対する指導により、緩やかな値下がり傾向にある。

B/S、P/Lへの影響

B/S、P/Lへの影響

【P/L】 2012年度の売上原価率増の主要因となる。
 <2011年度31.4%⇒2012年度34.8% **3.4p増**>
生薬価格高騰による影響度2.3p(約23億円)

(億円)

B/S	2010年度	2011年度	差額	数量増による影響	生薬単価による影響
たな卸資産	220	305	85	58	27
(製品)	36	61	24	24	0
(仕掛品)	64	78	13	13	0
(原材料)	119	166	47	20	27

主に2010、2011年度調達の生薬による影響

「生薬の単価上昇」による影響額と時期

(億円)

	2010年度	2011年度	2012年度
売上原価 影響額	—	—	+23
<製品出荷>			
ツムラ 在庫 影響額	—	+27	価格高騰の 影響はあり
<産地会社を經由して生薬購入>			
生薬産地	投機等により 価格上昇し た生薬	急騰した 人参 投機等によ り価格上昇 した生薬	生薬価格 上昇の ピークは越 え、下降傾 向にある

2010年度

生薬価格の高騰はみられたものの、当社への影響度は不確定であった。

2011年度

当社在庫(B/S)への影響が顕在化した。生薬価格高騰による期末在庫への影響額は約27億円とみる。

2012年度

2011年度の在庫生薬が、2012年度の売上原価率を増加させる。(約23億円)
「人参」は2010年度の価格高騰を勘案し、在庫を最小限に抑えた。その結果、2011年度購入の「人参」が、短期間で原価に影響を与える見通し。

今後の対策

生薬調達安定化(量・品質・価格) のための施策

地域 \ 施策	「自社管理圃場」の拡大	野生生薬の栽培化
中国	<ul style="list-style-type: none"> ・「甘草」圃場の拡大 ・「人参」圃場の拡大(白山市) 	「甘草」
日本	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道を中心に従来の5拠点で、栽培面積・栽培品種を拡大 ・九州にあらたな拠点をおく ・「人参」の栽培面積拡大 ・「葉たばこ」生産農家からの転作 	「甘草」の試験栽培
ラオス	2011年度 約200ha ⇒2015年度 1,000haを目指す	—

「自社管理圃場」とは

『一定規模の栽培面積を有し、当社の直接的な栽培指導ができ、栽培にかかるコストの把握とそれに基づく生薬の購入価格設定が可能な圃場』

具体例

- ① 当社および当社関連会社が保有(借用)する農地で、自ら栽培する圃場(夕張ツムラ、ラオツムラ)
- ② 生産団体(日本)または産地会社(中国)が保有する農地で、当社の指導に基づき栽培し、栽培コストに基づく買取価格を設定できる圃場

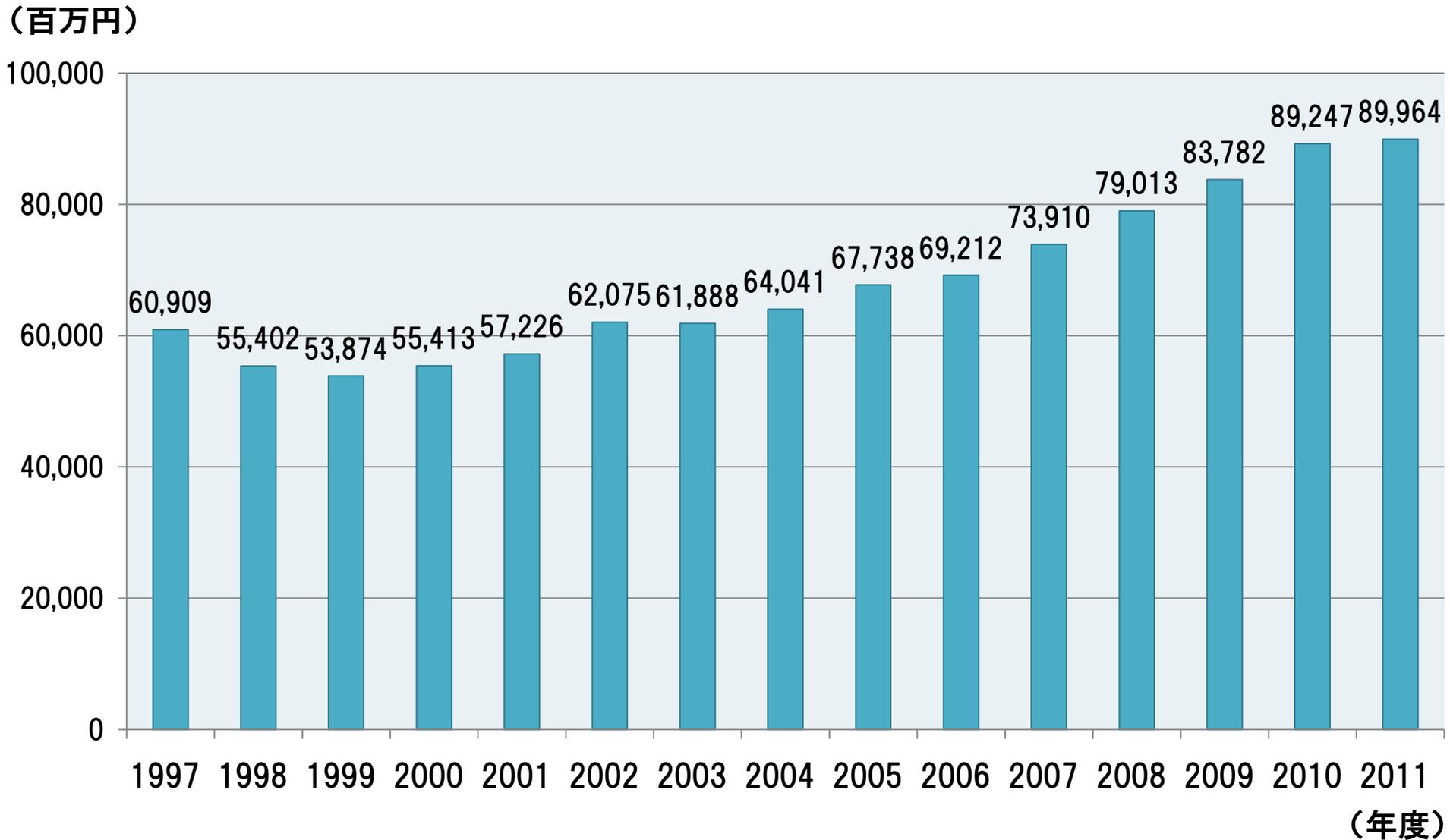
「自社管理圃場」拡大の効果

【期待される効果】

- ① 投機などによる市場価格の影響を受けない
- ② 大規模化・機械化による生産効率の向上により、コストダウンが図れる
- ③ 最新栽培技術の導入により、単位面積あたりの収量増が図れる

参考資料

医療用漢方製剤(129処方)の売上高



医療用漢方製剤 売上高トップ10

(百万円)

順位	処方名	H23/3 (3/2011)	H24/3 (3/2012)	比較増減 Difference	
1	<u>TJ-100</u> 大建中湯 Daikenchuto	7,960	8,383	422	5.3%
2	TJ-41 補中益気湯 Hochuekkito	6,218	5,885	△ 333	△ 5.4%
3	<u>TJ-43</u> 六君子湯 Rikkunshito	5,288	5,314	25	0.5%
4	<u>TJ-54</u> 抑肝散 Yokukansan	3,984	4,748	763	19.2%
5	TJ-24 加味逍遙散 Kamishoyosan	3,653	3,700	46	1.3%
6	<u>TJ-107</u> 牛車腎気丸 Goshajinkigan	3,531	3,564	32	0.9%
7	TJ-68 芍薬甘草湯 Shakuyakukanzoto	3,309	3,456	147	4.5%
8	TJ-29 麦門冬湯 Bakumondoto	3,510	3,453	△ 56	△ 1.6%
9	TJ-114 柴苓湯 Saireito	3,336	3,228	△ 107	△ 3.2%
10	TJ-19 小青竜湯 Shoseiryuto	2,757	2,608	△ 148	△ 5.4%
	<u>TJ-14</u> 半夏瀉心湯 Hangeshashinto	867	902	35	4.1%
医療用漢方製剤129処方計 Total of 129 prescription kampo preparations		89,247	89,964	716	0.8%

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社ツムラ
コーポレート・コミュニケーション室

広報グループ
TEL:03-6361-7100

IR推進グループ
TEL:03-6361-7101

注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。将来の予測等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって、実際の業績等は予想値とは異なる結果となる可能性があります。

また、医薬品に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。